

「家事スタイルに関する調査2013」結果の速報

— 住宅の高機能化が進み、家事の“仕方なく感”増大 —

株式会社日本能率協会総合研究所（代表取締役社長：加藤 文昭 本社：東京都港区）は、20～70代の主婦を対象に、2006年・2010年に引き続き「家事スタイルに関する調査2013」を実施いたしました。本調査は、主婦の家事全般に関するニーズをモノ・行動と価値観から検証するため、①調理行動と食品の購入・保存、②キッチン設備と後片づけ・掃除、③水まわりや居室等の掃除・洗濯の家事、④家事全般の実態と意識について、網羅的に調査いたしました。その結果、下記のような実態が明らかになりました。

(<http://www.jmar.biz/hot/hotanq46.html>)

◆ “システムキッチン化” が加速、

今どきのスタイリッシュで高機能なキッチンが普及。

「システムキッチンである」と回答した人は76%、「システムキッチンでない」と回答した人23%を大幅に上回る。2010年と比較すると10ポイント、2006年と比較すると14ポイント増加。

◆ コンロも年々、高機能化が進む。

30代はIH、50代・60代は多機能ガスコンロを導入。

「ガスコンロ」79%、「IHクッキングヒーター」17%。2006年と比較すると「ガスコンロ」は10ポイント減少し、「IHクッキングヒーター」は10ポイント増加した。

◆ 洗い物、寝具や洗濯物のケア、包丁でむく・刻むなど、

年々増している手間をかけることへの面倒感。

「面倒・嫌い」が10ポイント以上増加したのが「使った鍋等を洗う」「流しの掃除」「シーツの交換」「布団干し」の4項目。この他、「食器を手洗いする」「洗濯物の取込・畳む」「洗濯物干し」「包丁で皮をむく」「包丁で千切り・みじん切り」が並ぶ。

◆ 年々増大する家事の“仕方なく感”、

30代・40代主婦の過半数は仕方なくやっている。

「家事は仕方なくやっている」の「とてもあてはまる」「まああてはまる」の合計は45%。2006年38%、2010年41%から年々増加しており、30代最も多く、次いで40代で、いずれも5割を超える。

【調査概要】

- ・調査エリア： 首都圏（東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県）、中部圏（岐阜県・静岡県・愛知県・三重県）、近畿圏（京都府・大阪府・兵庫県）
- ・調査対象： 上記3地域に居住する20～70代の主婦（既婚女性）
- ・調査方法： 弊社「モニターリサーチ・システム」利用による郵送調査
- ・有効回収数： 1,090人（発送数1,550人・有効回収率70.3%）
- ・調査期間： 2012年11月28日（水）～12月8日（土）

《本件についてのお問い合わせ先》

株式会社日本能率協会総合研究所 生活者HOTアンケート事務局 担当：土井
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル2階
TEL:03-6202-1287 FAX:03-6202-1294 E-mail:info_mlmcc@jmar.co.jp

◆ “システムキッチン化” が加速、 今どきのスタイリッシュで高機能なキッチンが普及。

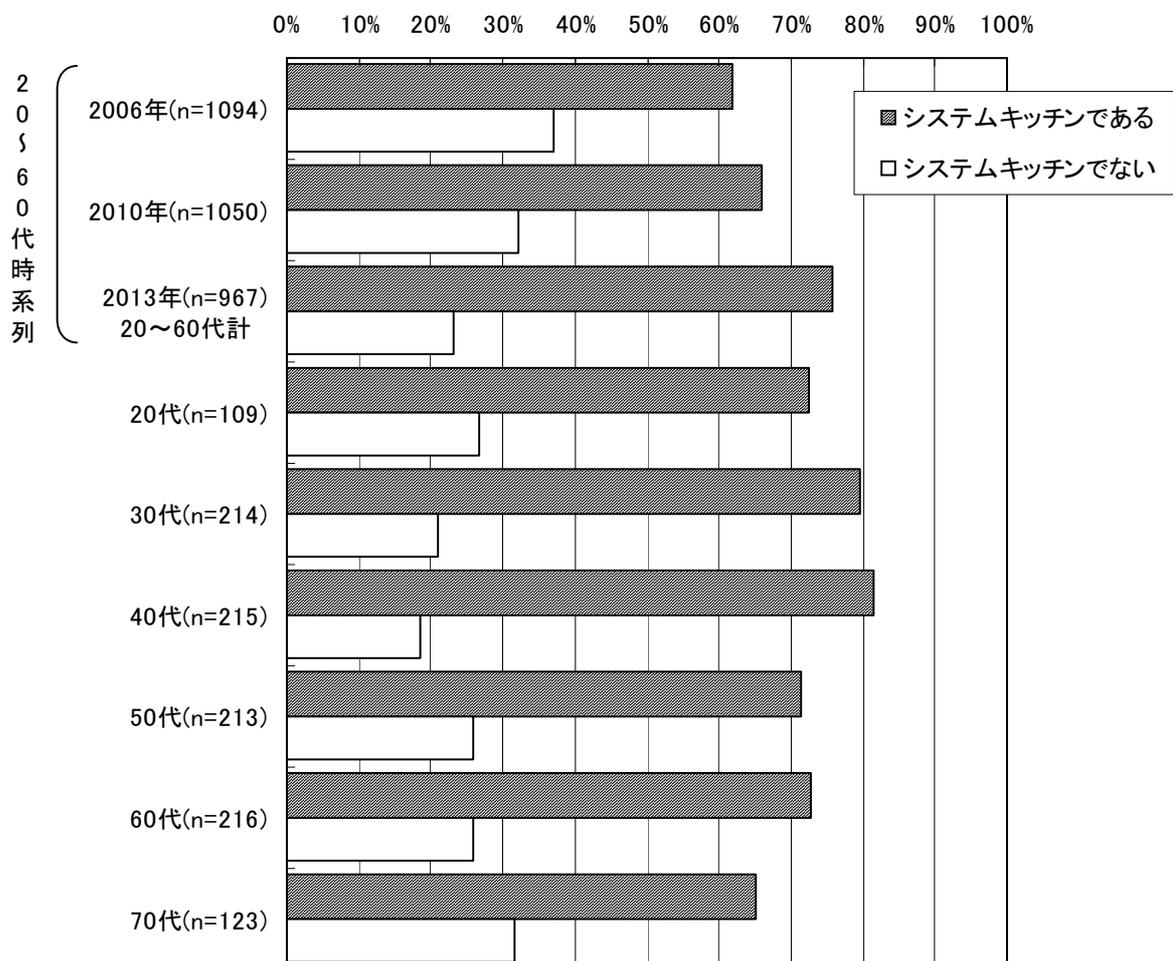
お宅のキッチンにある設備やそのタイプについて聞きました。「システムキッチンである」と回答した人は76%、「システムキッチンでない」と回答した人23%を大幅に上回り、今どきの家庭のキッチンは4軒に3軒がシステムキッチンです。

「システムキッチンである」は2010年と比較すると10ポイント、2006年と比較すると14ポイント増加しており、着々と“システムキッチン化”が進行している様子です。主婦を年代別に比較すると、40代が81%と最も多く、次いで30代が79%、一方70代は65%と最低でした。この10～20年で新居を構えた年代に一番多いという結果です。

キッチンの間取りも、戦後主流だった「ダイニングキッチン（DK）」38%よりも、「対面式カウンター」（セミオープン型、オープン型・アイランド型の合計）のキッチンが40%と多くなり、逆転しました。この他「収納が引き出しタイプのシステムキッチン」「排水口の浅型ゴミ収納カゴ」「扉のデザインがキッチンと一体の食器戸棚」「シャワー式の延びる水栓」「キッチン組み込み型の食器洗い機」「キッチン組み込み型の浄水器」といったキッチンの設備が2010年以降5ポイント以上増加していました。

かつては憧れだったモデルルームのようなシステムキッチンが今や主流となり、統一されたスタイリッシュなデザインで使いやすく手入れのしやすい、家事の軽減もできる高機能なキッチンが当たり前となってきました。

図表1 キッチン設備 (MA)



※システムキッチンとは、シンク（流し台）・調理台・ガス台等を組み合わせ、1枚の天板（キッチンカウンター）がその上に継ぎ目なくつながっているもの

◆コンロも年々、高機能化が進む。

30代はIH、50代・60代は多機能ガスコンロを導入。

コンロのタイプや機能について聞きました。

「ガスコンロ」が79%と「IHクッキングヒーター」17%よりも圧倒的上回っていますが、2006年と比較すると「ガスコンロ」は10ポイント減少し、「IHクッキングヒーター」は10ポイント増加しています。

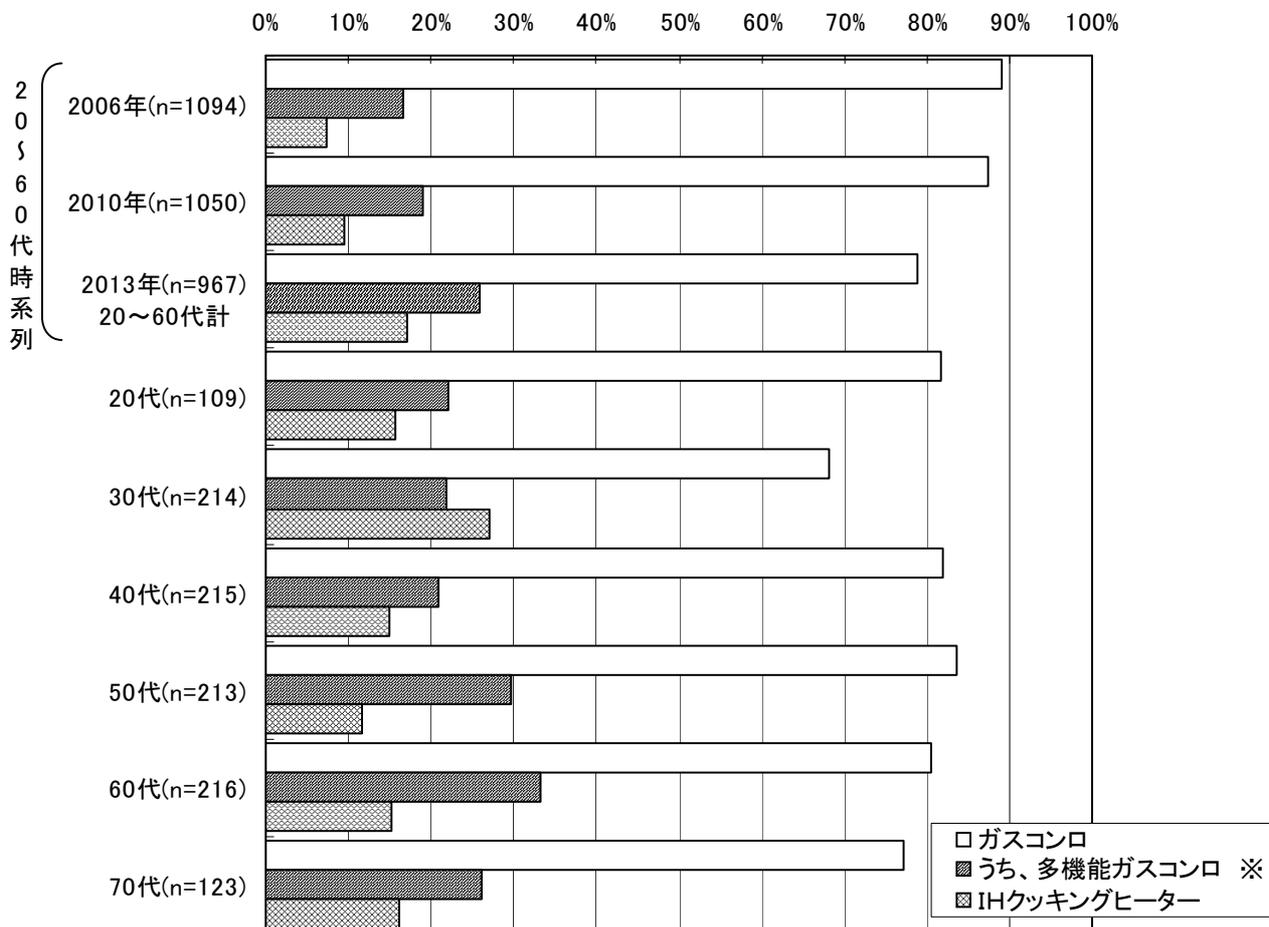
その機能は「3口以上」「安全機能付」「両面焼きの魚焼きグリル付」「時間・温度設定機能付」「フラットなガラス天板」が2010年から5ポイント以上増加し、コンロも高機能化が進んでいました。

「ガスコンロ」のうち、「時間・温度設定機能付」または「フラットなガラス天板」に回答した人のコンロを「多機能ガスコンロ」として集計したところ26%となり、2006年から9ポイント増加していました。

2013年の20～60代計で見ると「IHクッキングヒーター」より「多機能ガスコンロ」のほうが優勢です。2010年からの増加はいずれも7ポイント前後と拮抗しています。

年代別に見ると、30代は「IHクッキングヒーター」のほうが「多機能ガスコンロ」よりも5ポイント以上多い唯一の年代で、デジタルな使い勝手やすっきりした外観と手入れのやすさが好まれたようです。一方、60代・50代は「多機能ガスコンロ」のほうが「IHクッキングヒーター」よりも約18ポイント多く、より火にこだわっている様子です。また、30代の「IHクッキングヒーター」、60代・50代の「多機能ガスコンロ」はともに2010年から10ポイント以上増加しており、この3年間で好みははっきり分かれたようです。

図表2 キッチンのコンロ設備 (MA)



※「ガスコンロ」と回答した人のうち、「時間・温度設定機能付」または「汚れを落としやすいフラットなガラス天板」に回答した人

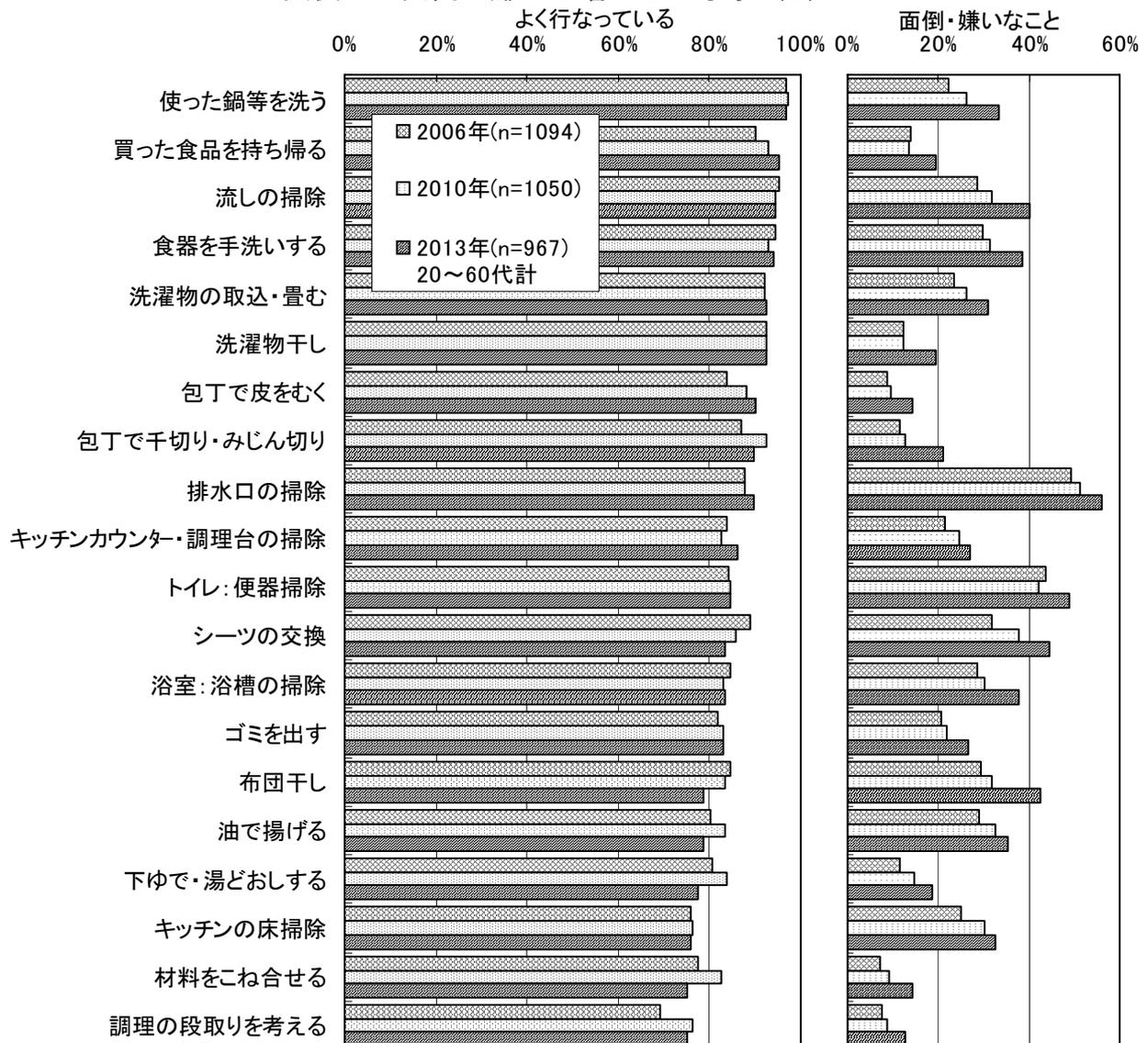
◆洗い物、寝具や洗濯物のケア、包丁でむく・刻むなど、 年々増している手間をかけることへの面倒感。

195 項目の家事行動のうち「面倒・嫌い」のワースト3は、「換気扇の掃除」「アイロンかけ」「浴室：カビ・黒ずみの掃除」でいずれも6割以上です。この3項目は時系列の変化はほとんどなく、「よく行なっている」が7割未満と、しないで済ませる人もいる家事です。

2006年と比較可能な140項目のうち「面倒・嫌い」が5ポイント以上増加したものは39項目、そのうち「よく行っている」が7割以上の家事が下記グラフの20項目です。この20項目は、しないで済ませることが難しく、面倒感が増加している家事といえます。

このうち、「面倒・嫌い」が10ポイント以上増加したのが「使った鍋等を洗う」「流しの掃除」「シーツの交換」「布団干し」の4項目で、食器洗い機が普及したり、寝室の洋室化・ベッド化が進むことにより、かえって面倒感が増した様子です。その他、「よく行っている」が9割程度以上を見ると、「食器を手洗いする」「洗濯物の取込・畳む」「洗濯物干し」「包丁で皮をむく」「包丁で千切り・みじん切り」と手や身体を使う家事が並びます。自ら行なわざるを得ない、設備や機器で代替しきれない家事がほとんどです。住環境やキッチンの機能が進化し、機器に任せたり設備で軽減できる家事が増えた分、手間をかけることへの面倒感が増加しています。

図表3 面倒・嫌いが増加した家事 (MA)



※2006年・2010年と比較可能な140項目の家事行動のうち、「面倒・嫌い」が2006年から5ポイント以上増加し、「行っている」が2013年で7割以上の項目

◆年々増大する家事の“仕方なく感”、

30代・40代主婦の過半数は仕方なくやっている。

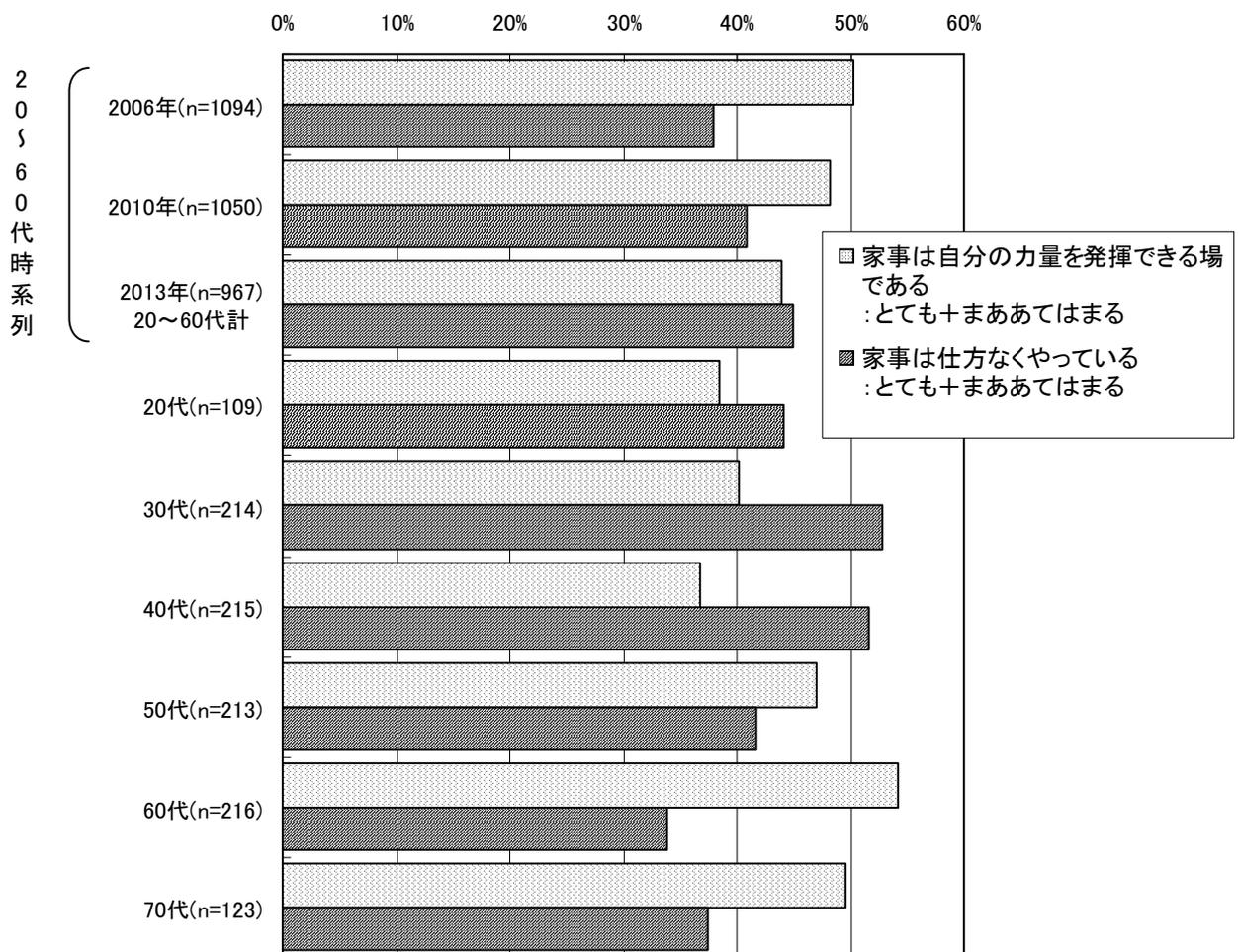
家事の意識についてあてはまるかどうか聞きました。

「家事は自分の力量を発揮できる場である」という考え方については、「とてもあてはまる」「まああてはまる」の合計は20～60代計で44%。2006年と比較して6ポイント減少しており、家事をポジティブにとらえる人は年々減っています。年代別には60代・70代で多いのが目立つ一方、40代では37%と少ないのが目立ちます。

「家事は仕方なくやっている」については、「とてもあてはまる」「まああてはまる」の合計は20～60代計で45%。時系列で見ると、2006年38%、2010年41%から年々増加しており、今回は“力量発揮”よりも“仕方なく感”が上回りました。

年代別に見ると、“仕方なく感”は30代最も多く、次いで40代で、いずれも5割を超えます。一方、60代・70代は4割未満と少なく、“仕方なく感”が強いのは子育て世代の30代・40代、弱いのはシニア世代という結果でした。

図表4 家事に対する意識 (SA)



「家事スタイルに関する調査2013」は、20～70代の主婦を対象に、主婦の家事全般に関するニーズをモノ・行動と価値観から検証するため、①調理行動と食品の購入・保存、②キッチン設備と後片づけ・掃除、③水まわりや居室等の掃除・洗濯の家事、④家事全般の実態と意識について、網羅的に調査調査を企画・実施いたしました。

①《調理行動編》：普段の調理行動と調理方法、購買行動、食品の保存

食事づくり、食品の購入・保存・調理に、何を使い・何に困っているのか
ふだんの調理行動の実態とニーズ、購買行動、食品の保存場所、
炊飯、揚げ物・焼き物・煮物の調理、調理家電・電子レンジ・オーブンの使い方、調理意識

②《キッチン編》：キッチン設備と器具・道具、後片づけと掃除

キッチンには、何があり・何を行っているのか、後片づけ・掃除は？
キッチンの設備・機能、調理家電・調理器具の所有・使用・収納、
後片づけ・掃除・大掃除、気になる汚れ、キッチン意識

③《掃除・洗濯編》：家の中の設備・掃除と洗濯行動

バス・洗面所・トイレの設備・機能の実態、気になる汚れ、掃除行動と使う用品
リビング・寝室・玄関の実態、気になる汚れ、掃除行動と使う用品
洗濯に使う用品の実態とニーズ、水まわりに対する意識

④《家事スタイル編》：簡便化・外部化ニーズ&家事全般のまとめ

“家庭内のシゴト”意識&「調理行動」「キッチン」「掃除・洗濯」の総括・まとめ

2006年・2010年に「家事スタイルに関する調査」を実施しており、本調査はその継続調査です。

本調査は、主婦の“家の仕事”ニーズを、モノ・行動と価値観から検証した総合的に調査したもので、“イエナカ”マーケティングに必要不可欠な基礎調査データです。本調査は、今回はその中から、「キッチン設備」「キッチンのコンロ設備」「面倒・嫌いが増加した家事」「家事に対する意識」に焦点を当てて結果の速報を報告しております。

(<http://www.jmar.biz/hot/hotanq46.html>)

【調査入手のご案内】

弊社自主企画により、複数企業にご参加いただく方式で実施し、以下のアウトプット一式を提供いたします。

- ・調査のアウトプット《調理行動編》《キッチン編》《掃除・洗濯編》《家事スタイル編》各編毎に
 - (1)調査報告書：A4判・38～54ページ・2013年2月発行
 - (2)集計結果表：A4判・316～809ページ・2012年12月発行
 - (3)磁気データ(CD-ROM)：クロス集計、ローデータ、他
- ・調査参加費用：定価 各編320,000円(税込336,000円)
MDBメンバー価格 各編280,000円(税込294,000円)
※セット価格あり

《本件についてのお問い合わせ先》

株式会社日本能率協会総合研究所 生活者HOTアンケート事務局 担当：土井
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル2階
TEL:03-6202-1287 FAX:03-6202-1294 E-mail:info_mlmc@jmar.co.jp

本件引用の際は、お手数ですが、上記あて掲載紙をご送付ください。